

# 高木レクチャーについて

小林 俊行

高木貞治先生(1875-1960)のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年11月に始まりました。

「高木レクチャー」は、世界的に卓越した数学者を講演者として招聘し、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、日本数学会が新たな数学の発展に寄与することを目指した企画です。「高木レクチャー」に冠せられた「高木」とは、整数論を象徴しているのではなく、「日本から、オリジナルのもの、良いものを発信する」という精神を象徴しており、講演者は分野にとらわれることなく選出・招聘されます。

毎年2回、新緑の季節と錦秋の季節に開催される予定の「高木レクチャー」はまた、わが国で継続して発行され続けている数学学術誌として最古のものである **Japanese Journal of Mathematics (JJM)** が、将来にわたって国際的にきわめて高い水準の研究総説を発信し続けるシステムの一翼も担っています。「高木レクチャー」はこのようなアイディアにもとづいて立案され、日本数学会理事会で検討を重ねた後、高木貞治先生のご遺族の了承を得て、最終的には2006年3月26日の日本数学会評議員会で設立が承認されました。高木レクチャー立ち上げ時の組織委員会は JJM の新編集委員である小野薫・河東泰之・斎藤毅・中島啓と私によって構成されています。1990年に京都で開催された国際数学者会議 (ICM90) の記念基金という貴重な資産の一部も「高木レクチャー」の活動の補助に使われています。

日本数学会では近年、この長い伝統を誇る学術誌 JJM の使命の見直しを行いました。その結果、2005年に存続の危機に陥った JJM を救うことができたばかりでなく、JJM は2006年春からオリジナルな研究総説を掲載する学術誌 (JJM 第3シリーズ) として生まれ変わることになりました (紀伊國屋書店撤退から JJM 再建までの経緯につきましては、2006年3月に第3シリーズ創刊号が発刊したときに日本数学会前理事長の森田康夫先生が書かれた記事 (「数学通信」11巻1号) をご覧ください)。

この第3シリーズ創刊時には「日本から、オリジナルのもの、良いものを発信する」という精神に立ち返り、その精神のシンボルとして、葛飾北斎の名作「凱風快晴」を表紙に用いることにし (図1)、JJM の文字で富士山をかたどったロゴ (図3) もデザインしました。このロゴにはまた、1924年から継続して出版され続けたという歴史と伝統を大切にしようという気持ちも込められています。高木レクチャーでは、各講演者が数十ページの原稿を準備し、それを綴じた冊子 (図2) が講演の初日に配られます。そして講演の後、その原稿は、聴衆

のフィードバックを受けて加筆修正され、専門家による査読を経た後 Springer 社から JJM の研究総説として国際的に出版されるシステムになっています。日本数学会会員には各冊子の割引販売も行っています（本体価格 7500 円）。

定期的に行われる数学の講演会で世界的に名高いものには、フランスのブルバキ・セミナー、プリンストン高等研究所のヘルマン・ワイル レクチャーなどがあります。いずれの講演会も、そこに講演者として招待されること自体が、講演者に誇りと榮譽を感じさせるような権威ある催しですが、日本発信の高木レクチャーもまた、そのような講演会の 1 つとして世界に貢献することを願っています。

第 1 回高木レクチャーは、秋の美しい京都で日本数学会と京都大学数理解析研究所の共催で行われました。最先端の数学者たちが多忙を極める中でも貴重な時間をさいて連続講演の準備に真剣に取り組み、来日して下さったわけですが、聴衆の熱気と講演中・講演後の真摯な議論によって、さらに素晴らしいものが新たに生まれ育つきっかけになったのではないかと思います。記念すべき第 1 回の講演は次の 4 名によって行われました。

ブロック (シカゴ大学教授)	グラフとモチーフ
リオンス (コレージュ・ド・フランス教授)	平均場ゲーム
スメイル (豊田工大シカゴ校教授・シカゴ大学教授)	「創発」の数学
ヴォアザン (CNRS 教授)	ホッジ予想について

「数学セミナー」2007 年 6 月号 (日本評論社) にも、高木レクチャー特集として、斎藤毅・石井仁司・宍倉光広・中島啓の各氏による上記 4 つの講演の紹介記事や、三宅克哉氏による高木先生の紹介記事が掲載される予定ですので、どうぞお読みください。

第 1 回の高木レクチャーを振り返ると、講演の前日に私と一緒に大文字山に登って京都の町並みの展望を楽しんだ 70 歳のスメイル、鉄道事故で飛行機に乗り遅れてしまったけれど次の便の切符を即断で買って駆けつけてくれたヴォアザン、シラク大統領直属の科学技術高等評議会の仕事まで引き受けて多忙のため、空港に着いた足でそのまま講演会場に直行してくれたリオンス、加藤和也さんや斎藤毅さんといつも和やかな雰囲気醸し出していたブロック、と講演者たちの人柄を身近に感じる事ができたことも、印象深い思い出となりました。

第 1 回高木レクチャー講演のビデオは、戸瀬信之氏らのご尽力で撮影され、東大数理 Video

Archives Project チームによる編集を経て公開がはじまりました（このビデオは JJM のウェブサイト <http://www.math.or.jp/JJM/>よりリンクされています）。

2007 年春に出版された JJM 第 2 巻第 1 号では「伊藤清氏第 1 回ガウス賞受賞特集」と同時掲載で「第 1 回高木レクチャー特集」を組み、ブロック、スマイル、リオンスの研究総説 3 本を掲載しています。また、高木貞治先生が日本の現代数学の父として、どのようなお仕事をされてこられたかについて三宅克哉氏が書かれた研究総説も掲載しています。ヴォアザンの研究総説は 2007 年の秋の号に掲載予定です。

第 2 回高木レクチャーは今年、新緑の東京で日本数学会と東京大学大学院数理科学研究科の共催で、次のとおり開催される予定です。

\*\*\*\*\*

招待講演者： K.-H. Neeb (ダルムシュタット工科大学教授)

D.-V. Voiculescu (カリフォルニア大学教授)

M. Yor (ピエール=マリ・キュリー大学教授)

日時：第 1 日 2007 年 5 月 26 日 (土) 12 時半より受付, 13 時半開始, 18 時終了

第 2 日 5 月 27 日 (日) 9 時半開始, 14 時半終了

(14 時 40 分よりクロージング・パーティ)

場所：東京大学大学院数理科学研究科大講義室

【連絡先】日本数学会事務局

\*\*\*\*\*

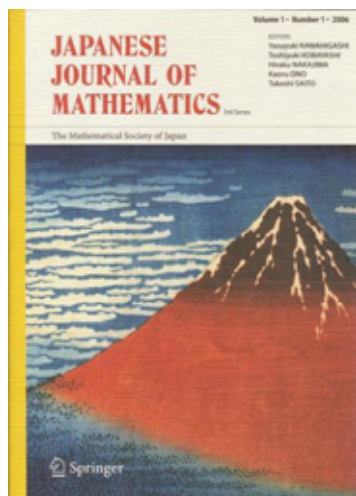


図 1

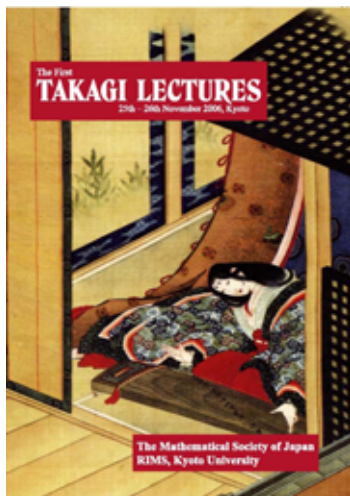


図 2



図 3